

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルーム ピースプラント

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども一人あたり6.26㎡の床面積を確保、更衣室、カムダウンのスペースを設けている。	今後も安全点検を継続し、運営する。
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士等を常時3人以上、指導スタッフとして配置している。	他店舗と連携を取りながらサービスの提供を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		絵カードなど視覚支援などの設備も完備している。移動手段が階段しかないが、必要な方には介助をしている。	利用児に合わせた対応を継続する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	○		全職員が同じシステム、同じ意図をもって支援にあたるように月1度のスタッフ全員でのミーティングなどで適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報共有や意見を交換を継続して実施する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末にアンケートを記入していただいている。毎回、保護者の方には見学をいただいているので情報共有できている。	今後も継続してアンケートやモニタリングを実施し、保護者との情報共有を欠かさないように行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページでpdfファイルを開示し、誰にでも閲覧できる形で公表している。	今後も保護者の方にわかるように掲示する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		コロナの影響により、ピースプラント主催の勉強会を開催する事が難しい。	外部からの講師を招き研修を行う。また、見学の方からの意見を改善に反映する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナの影響により外部講師を招いての研修の研修が難しいが、自主的に外部研修を受けに行ける機会は設けている。	コロナの影響等も考え、外部講師を招いた研修や伝達講習を継続して実施する。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		年に一回以上、確実にモニタリングを行っている。日々の療育のフィードバックにて保護者の方と情報共有している。	保護者の方の話の聞き取りや情報を共有を実施する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		研修や伝達講習を社内で設けて、職員全体での評価基準を揃えられようとしている。	職員での話し合いを継続し、療育の質を確保する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全利用者の指導アプローチをスタッフ全員で共有する会話を毎日、朝の朝礼と業務終わりに実施している。	職員で話し合いの時間をつくり立案する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの自主性や主体性からプログラムを提供するサービススタイルなので、固定化しないように工夫している。	今後も様々なアイデアから活動プログラムの立案を行い、子どもの成長に繋げる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日・休日・長期休暇等で特に課題の変更はしていない。	本人の課題に必要な支援を継続する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別運動療育とピースラボでそれぞれの目標を立案している。	本人の課題に応じて必要な目標を立案する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ずその日の利用する子どもらの指導担当スタッフが割り振り、役割分担を確認している。また、毎朝LINEにて全店舗での情報共有を行っている。	今後も職員同士で話す時間を設ける。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ず毎日指導スタッフが全スタッフの前で感想、気付き、問題点などを発表し共有化している。	一緒に共有する中で、子どもの成長に繋げる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用実績記録表と併用して、ひとりひとりの指導記録を記入している。	記録を確実に記入する。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月に1度の割合で聞き取り調査などで保護者との会話の時間をとっている。また、必ず保護者が指導現場に同席されるので、毎回の利用で意見交換を実施している。	情報共有を継続し、作成・立案する。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		運動・コミュニケーション・認知面といった生きる力を支援内容に入れている。	今後も、必要な内容を取り入れる。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現場責任者が参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		同席される保護者様から随時情報を提供していただいている。	学校からの見学も多数あり、支援の理解を共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療ケアが必要な児童の利用が無い。	今後必要な児童が利用した場合には、連携をする。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談支援事業所や担当者会議、保護者様との情報共有を行っている。また、他事業所の方や学校の先生にも療育を見学していただき、地域との連携に努めている。	今後も情報収集・共有をし、理解に繋げる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		利用に際して、全指導記録が保管されている。	必要があれば、いつでも提供できる。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市内の発達障害児をサポートする団体が集まる「ホットメールなな」にはコロナの影響により参加が出来ていないが、情報収集や支援センター主催の研修会に参加していきたいと考えている。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		受給者証をもっている利用者の方のみ関わっている。	療育体験会の実施や他事業所に向けた勉強会などで交流する機会を設けようとしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		大阪府都島区の地域自立支援協議会児童部会にはZOOM等のオンラインでのやり取りをしながら、定期的に参加している。	今後も継続して参加する。
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		同席される保護者様と随時話をしている。	子どもの理解を深める為に、確認を徹底する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		運動・スポーツに関する相談だけでなく、運動・スポーツを利用した子どもさんの成長に役立つ情報をお伝えしている。	今後も、必要な情報を伝える。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		館内掲示とともに毎回の契約時に適切に説明、理解を実施している。	不明な点が無いように確認をしながら説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保育士を中心に随時適切な相談、助言を実施している。	保護者の方の悩みに対して、相談・助言の中で支援する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナでの影響があり、外部講師を呼ぶなどの依頼が難しく、開催には至っていない。	今後のコロナの状況を考慮し、外部講師などを呼べるようにする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している。	即時対応できるように現体制を継続する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		SNSで活動中の様子や行事などを投稿し、幅広い方々に見ていただけるように働きかけている。	保護者の方に情報を開示し、説明する。
	35	個人情報に十分注意している	○		確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠忘れが無いよう確認する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		毎回の利用時に必ず、保護者との直接会話の時間をつくっている。	情報交換の時間を確保する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		勉強会や講演会などを随時開催している。	今後も実施していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時の対応に関して、フローチャート式のマニュアルを作成し、準じた対応が出来るように職員に情報共有を実施し、6か月に1度療育の中で訓練を実施している。	今後も実施していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		6か月に1度療育の時間の中で、避難訓練を実施しており、避難に必要な経路の清掃や経路の確保に努めている。	今後も実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングで伝達講習を実施する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		同伴する保護者がいるので、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		基本的におやつ、食事の提供は行っていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、いた場合には指示書を提出してもらう。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングし、全てのスタッフが確認できるようにしている。	ヒヤリハットを職員で共有し、改善できるようにする。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルーム ピースプラント 3くみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子ども一人あたり6.26㎡の床面積を確保、更衣室、カムダウンのスペースを設けている。	今後も安全点検を継続し、運営する。
	2 職員の配置数は適切である	○		児童指導員、保育士、障害福祉サービス経験者を常時3人以上、指導スタッフとして配置している。	他店舗と連携を取りながらサービスの提供を行う。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		絵カードなど視覚支援などの設備も完備している。移動手段が階段しかないが、必要な方には介助をしている。	利用児に合わせた対応を継続する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が同じシステム、同じ意図をもって支援にあたるように月1度のスタッフ全員でのミーティングなどで適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報共有や意見を交換を継続して実施する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末にアンケートを記入していただいている。毎回、保護者の方には見学をいただいているので情報共有できている。	今後も継続してアンケートやモニタリングを実施し、保護者との情報共有を欠かさないように行う。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページでpdfファイルを開示し、誰にでも閲覧できる形で公表している。	今後も保護者の方にわかるように掲示する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		コロナの影響により、ピースプラント主催の勉強会を開催する事が難しい。	外部からの講師を招き研修を行う。また、見学の方からの意見を改善に反映する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナの影響により外部講師を招いての研修の研修が難しいが、自主的に外部研修を受けに行ける機会は設けている。	コロナの影響等も考え、外部講師を招いた研修や伝達講習を継続して実施する。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		年に一回以上、確実にモニタリングを行っている。日々の療育のフィードバックにて保護者の方と情報共有している。	保護者の方の話の聞き取りや情報を共有を実施する。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		研修や伝達講習を社内で設けて、職員全体での評価基準を揃えられようとしている。	職員での話し合いを継続し、療育の質を確保する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全利用者の指導アプローチをスタッフ全員で共有する会話を毎日、朝の朝礼と業務終わりに実施している。	職員で話し合いの時間をつくり立案する。
適切なさ	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		指導者だけがプログラムを決めず、子どもらの自主性や主体性からプログラムを提供するサービススタイルなので、固定化しないように工夫している。	今後も様々なアイデアから活動プログラムの立案を行い、子どもの成長に繋げる。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	平日・休日・長期休暇等で特に課題の変更はしていない。	本人の課題に必要な支援を継続する。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別運動療育とピースラボでそれぞれの目標を立案している。	本人の課題に応じて必要な目標を立案する。

支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ずその日の利用する子どもらの指導担当スタッフを割り振り、役割分担を確認している。また、毎朝LINEにて全店舗での情報共有を行っている。	今後も職員同士で話す時間を設ける。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ず毎日指導スタッフが全スタッフの前で感想、気付き、問題点などを発表し共有化している。	一緒に共有する中で、子どもの成長に繋げる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用実績記録表と併用して、ひとりひとりの指導記録を記入している。	記録を確実に記入する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月に1度の割合で聞き取り調査などで保護者との会話の時間をつくっている。また、必ず保護者が指導現場に同席されるので、毎回の利用で意見交換を実施している。	情報共有を継続し、作成・立案する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		運動・コミュニケーション・認知面といった生きる力を支援内容に入れている。	今後も、必要な内容を取り入れる。
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現場責任者が参加している。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		同席される保護者様から随時情報を提供していただいている。	学校からの見学も多数あり、支援の理解を共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療ケアの必要な児童の利用が無い。	今後必要な児童が利用した場合には、連携をする。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談支援事業所や担当者会議、保護者様との情報共有を行っている。また、他事業所の方や学校の先生にも療育を見学していただき、地域との連携に努めている。	今後も情報収集・共有をし、理解に繋げる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		利用に際して、全指導記録が保管されている。	必要があれば、いつでも提供できる。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		大阪市内の発達障害児をサポートする団体が集まる「ホットメールなにわ」にはころなの影響により参加が出来ていないが、情報収集や支援センター主催の研修会に参加していきたいと考えている。	ピースプラント以外での情報を仕入れ、支援に繋げる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		受給者証をもっている利用者の方のみと関わっている。	療育体験会の実施や他事業所に向けた勉強会などで交流する機会を設けようとしている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		大阪市都島区の地域自立支援協議会児童部会にはZOOM等のオンラインでのやり取りをしながら、定期的に参加している。	今後も継続して参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		同席される保護者様と随時話をしている。	子どもの理解を深める為に、確認を徹底する。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		運動・スポーツに関する相談だけでなく、運動・スポーツを利用した子どもさんの成長に役立つ情報はお伝えしている。	今後も、必要な情報を伝える。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	館内掲示とともに毎回の契約時に適切に説明、理解を実施している。	不明な点が無いように確認をしながら説明する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	障害児スポーツ指導員、元支援学校教員、児童指導員、保育士を中心に随時適切な相談、助言を実施している。	保護者の方の悩みに対して、相談・助言の中で支援する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	コロナでの影響があり、外部講師を呼ぶなどの依頼が難しく、開催には至っていない。	今後のコロナの状況を考慮し、外部講師などを呼べるようにする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している。	即時対応できるように現体制を継続する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	SNSで活動中の様子や行事などを投稿し、幅広い方々に、いてもらえるよう働きかけている。	保護者の方に情報を開示し、説明する。
	35	個人情報に十分注意している	○	確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠忘れが無いよう確認する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	毎回の利用時に必ず、保護者との直接会話の時間をつくっている。	情報交換の時間を確保する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	勉強会や講演会などを随時開催している。	今後も実施していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	緊急時の対応に関して、フローチャート式のマニュアルを作成し、準じた対応が出来るように職員に情報共有を実施し、6か月に1度療育の中で訓練を実施している。	今後も実施していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	6か月に1度療育の時間の中で、避難訓練を実施しており、避難に必要な経路の清掃や経路の確保に努めている。	今後も実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	月に一度の全体ミーティングにて研修を行うなどし、周知している。	全体ミーティングで伝達講習を実施する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	同伴する保護者がいるので、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	基本的におやつ、食事の提供は行っていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、いた場合には指示書を提出してもらおう。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ファイリングし、全てのスタッフが閲覧できるようにしている。	ヒヤリハットを職員で共有し、改善できるようにする。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 公表:2021年3月1日

事業所名 発達支援ルーム ピースプラント4くみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切な環境で実施している。	今後も引き続き、安全面に配慮し運営していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		保育士等を常時3人以上、指導スタッフとして配置している。	必要な時には、他店舗の職員と連携をとりながら、フォロー体制を整えている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		絵カードなど視覚支援などの設備も完備している。1階建物でバリアフリー化も出来ている。	利用児に合わせた対応を継続する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全職員が同じシステム、同じ意図をもって支援にあたるように月1度のスタッフ全員でのミーティングなどで適宜意見交換を行っている。	他店舗と情報交換をすることや職員間での意見交流、または研修なども、積極的に開催し、参加している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート実施以外にも、活動後に見学していただいた保護者の方との情報共有を必ず行っている。	今後も継続してアンケートやモニタリングを実施し、保護者との情報共有を欠かさず必要であれば業務改善も行っていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページでpdfファイルを開示し、保護者の方も見やすい形で閲覧できるように公表している。	今後も保護者の方が閲覧しやすいように掲示する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		相談支援や他事業所の方に見学をしてもらう機会を設けているが、コロナの状況もあり、出来ない事もある。	コロナの状況を考えながら、タイミングを見て実施していきたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の資質向上を目的に1週間に1度、研修機会を設けている。現在は、コロナの影響もある為、リモートで実施している。	外部研修を受けた職員に関しては伝達講習の場を設けたり、向上に向けた研修を実施している。(現在はリモート)
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		1年に1回以上、モニタリングで見直しや、保護者のニーズを聞き取りながら支援計画を作成している。	保護者の方と情報交換を行う中で、計画や療育を行う。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		研修や伝達講習を社内で行って、職員全体での評価基準を揃えられようとしている。	職員での話し合いを継続し、療育の質を確保する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		出勤後と、退勤前に全職員で目標設定等を共通認識出来るように時間を設けている。	継続して話し合う時間を作り、立案していく。
12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員と子どもが毎回プログラムを選択している為、固定化しないような工夫を行っている。	今後も様々なアイデアから活動プログラムの立案を行い、子どもの成長に繋げる。	

適切な支援の提供

13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○	平日・休日・長期休暇等で特に課題の変更はしていない。	本人の課題に必要な支援を継続する。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○	子どもによっては、個別運動療育とピースラボ(集団)でそれぞれの目標を立案している。	本人の課題に応じて必要な目標を立案する。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	当日の朝には、必ず全店舗でのスケジュールをラインで把握できるようにし、1日の役割分担も必ず実施している。	職員間でのコミュニケーションを今後もとっていく。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	担当職員が、児童の気付いたことや感想、課題に感じた事を、共有して、次回の療育に繋げるような機会を毎日設けている。	共有するうえで、子どもの成長に繋がっていききたい。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	全職員が共有できるフォルダに、支援後の記録を毎回入力し、支援内容の検証や改善が出来るように努めている。	記録漏れの内容に、確実に入力する。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	6ヶ月に1度のタイミングで計画のモニタリングを実施している。また、必ず保護者が指導現場に同席されるので、毎回の利用で意見交換を実施している。	情報共有を継続し、作成・立案する。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○	運動・コミュニケーション・認知面といった、その児童にとって、今後必要になってくる、生きる力を支援内容に入れている。	今後も、必要な内容を取り入れ、子どもの成長に繋げている。
20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童の事を把握し、支援している職員が参加するようにしている。	子どもの情報を普段から職員に共有できるようにする。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	同席される保護者様から随時情報を提供していただいている。	学校からの見学や保護者のニーズで学校訪問しているケースが多数あり、支援の理解を共有している。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	医療ケアの必要な児童の利用が無い。	今後必要な児童が利用した場合には、連携をする。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	相談支援の方や、会議などを開き、就学に向けて情報共有する時間を確保している。また、サポートブックなどにも協力させてもらっている。	今後も情報収集・共有をし、理解に繋げる。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	福祉サービスへ移行した児童はまだいないが、今後、必要なタイミングがあれば提供できるようにしている。	必要があれば、いつでも提供できる。
25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	コロナの影響により参加出来ていないが、情報収集や支援センター主催の研修会に参加していきたいと考えている。	ピースプラント以外での情報収集できる場を作っていきたい。

関係機関や保護者との連携

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	受給者証を持っている児童同士のみの関わりとなっている。	他事業所に向けた勉強会や、場所の開放など、機会を設けていこうと検討している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	大阪市都島区の地域自立支援協議会児童部会にはZOOM等のオンラインでのやり取りをしながら、定期的に参加している。	今後も継続して参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている		○	同席してもらっている保護者の方と情報共有する時間を確実に作っている。	共通認識をしたうえで、子どもの支援に繋げていきたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	運動の相談のみに限らず、私生活での困り事など、運動を通して出来る事などを保護者の方にお伝えしている。	今後も、必要な情報を伝える。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○	館内掲示とともに、契約時や、利用者負担額が発生したタイミングで丁寧な説明を行っている。	不明点が無いか、確認を取りながら確実にお伝えしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○	保育士を中心に随時適切な相談、助言を心掛けている。	保護者の方の悩みに対して、相談・助言の中で支援していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナでの影響があり、外部講師を呼ぶなどの依頼が難しく、開催には至っていない。	今後のコロナの状況を考慮し、外部講師などを呼べるようにする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○	児童発達支援管理者を中心に苦情に対しては即時対応するように徹底している。	即時対応できるように現体制を継続する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	SNSを通して支援内容の様子を投稿して、様々な方に見ていただけるような工夫をしている。	今後も、興味を持ってもらえるような情報発信や、現在の運営内容等をおつたえしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している		○	確実に施錠できるロッカーに保管している。	施錠忘れが無いよう職員間でダブルチェックしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○	保護者の方と話す時間を作り、必要であれば支援中にもコミュニケーションを取りながら進めている。	時間のある限り保護者の方との情報交換の時間を確保する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナの状況を見ながら、勉強会や講演会などを随時開催している。	今後もコロナの状況を見ながら、開催を検討したい。



非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時の対応マニュアルを作成し、準じた対応が出来るように職員に情報共有を実施し、6カ月に1度、訓練を実施している。	今後も確実に実施していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		6カ月に1度療育の時間の中で、避難訓練を実施しており、避難に必要な経路の清掃や経路の確保に努めている。	今後も確実に実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		1週間に1度、社員研修を行っている。また外部研修に参加した職員には、全職員への伝達講習も実施している。	今後も、全職員で情報共有や勉強会など実施していきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		同伴する保護者がいるので、身体拘束が必要な利用者はいない。	保護者の方に確認を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事の提供は行っていない。	今後そのような機会があれば、アレルギーの有無を確認し、場合によっては指示書を提出してもらう。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ファイリングする事と、全店舗職員での情報共有の時間を設けている。	大きな事故や怪我、または再発防止の為、共有時間を確保し、改善している。